

南アフリカ 柑橘類の出荷予測は減少

FreshPlaza 2023年7月4日

早春の熱波と夏の降雹のため北部で減収

様々な柑橘類の輸出見通しが下方修正された。ネーブル種は50万箱(15kg/箱)減の2,480万箱、グレープフルーツは10万箱減の1,430万箱となり、昨年より200万箱以上減少した。

バレンシア種の出荷量は、当初昨年よりも多いと推定されたが、予想輸出量はその後140万箱減少し、現在の予想の5,300万箱(15kg/箱)に落ち着いた。

一方、最近好調なソフト柑橘類の1つであるマンダリンは、晩生のマンダリンが11月に降雹の影響を受けたものの、20万箱の微増が見込まれる。

南アフリカは2つの非常に異なる降雨地帯に分けられるため、冬に雨が降るセレス地域のリンゴ園が雹に襲われたのと同じ2022年11月に、国の北部の柑橘園も同じく降雹の被害を受けたことは驚きである。

スクーンビーランドゴード社のダニー・ピーナール氏は、センウェス地域(リンポポ州とムプマランガ州の境界付近)では、保護ネットを備えた古い果樹園は最悪の雹害から守られたが、中心部から離れた同社の農場の1つでは、風が非常に強く、防雹ネットの柱が倒れ、今年はその園地からの収穫はないと言う。

しかし、さらに被害が大きかったのは、開花中の晩生の柑橘類、特にバレンシア種と晩生のマンダリンの落花につながった8月の熱波の影響であった。

同氏は、センウェス地域では全体として、バレンシア種と晩生のマンダリンの20%の減収が予想され、それに伴い果実のサイズが大きくなると予想されるため、販売計画と梱包方法を再考する必要があると言う。



2022年11月に降雹に見舞われたセンウェス地域のバレンシア種の果樹園

柑橘類生産者協会のジャスティン・チャドウィックCEOは最新のニュースレターで、レモンの予想輸出量を160万箱減らした天候条件に触れ、「北部の遅い雨は、早生品種の出荷と落果に影響を与えた。東ケープ州と西ケープ州の雨は、レモン、オレンジ、マンダリンのどれから梱包するかという選択に影響を与え、着色の遅れも影響を及ぼした」と書いている。

ある輸出業者は本サイト(FreshPlaza)に対し、「リンポポ州とムプマランガ州では出荷量が少ないため、地元の関係者らは出荷シーズンが実際に早期に終了すると予測している」と語った。この輸出業者はまた、ダーバンの冷蔵施設では荷動きが少ないと報告されていると付け加えた。

執筆者: キャロライズ・ヤンセン